

多様性に対する柔軟な視点を養う一助とするために
名古屋学院大学「宗教と民族」研究グループ主催 一般公開講演会
「ボーダレス化する世界と日本の宗教文化」を開催します

名古屋学院大学(名古屋市熱田区熱田西町)では「宗教と民族の対立・交流の現代歴史学的研究会」主催で國學院大學名誉教授の井上順孝先生を講師にお迎えし、下記のとおり一般公開講演会を開催いたします。定員 200 名、先着順で事前申し込み不要、入場無料です。当日のご参加をお待ちしております。

20 世紀末からグローバル化と情報化が加速度的に進行し、日本の宗教文化もさまざまな面で変容が観察されています。日常生活に溶け込んだ宗教習俗で見るとハロウィンやカーニバルが年中行事として組み込まれ、宗教ごとに見ると、近代化の中で広がったキリスト教会は 4,000 以上あり、最近ではモスクが数十か所に増加しています。日本に住む外国人の多様化とともに、ジャイナ教や上座仏教の寺院、その他これまで見られなかった宗教施設も増えています。他方で、日本の宗教や宗教文化も国外に広がりを見せています。日本のアニメを通して、日本の神々や妖怪のイメージ、あるいは靈魂観といったものが、世界の人々に広く知られるようになった現象も見られます。こうした現象は宗教的な問題に関する新しいフレームの形成を我々にもたらす可能性もありますが、その多様性に対する柔軟な視点を養うことが、これまでになく重要な課題となってきています。

講演会では、ボーダレス化する世界と日本の宗教文化についてお話をいただき、グローバル化が宗教文化に与える影響について考察していきます。

【講師プロフィール】

◆井上 順孝 (いのうえ のぶたか) 氏

1948 年生まれ。國學院大學名誉教授。専門は宗教社会学。國學院大學教授、國學院大學研究開発推進機構長、(公財)国際宗教研究所宗教情報リサーチセンター長を歴任。

近現代の宗教運動の比較研究、宗教文化教育の研究のほか、グローバル化や情報化が宗教に与える影響、最近では認知宗教学にも関心を広げている。編著書に『世界の宗教は人間に何を禁じてきたか』(KAWADE 夢文庫)、『宗教社会学を学ぶ人のために』(世界思想社)などがある。

【一般公開講演会「ボーダレス化する世界と日本の宗教文化」開催】

- 日時 : 2019 年 12 月 1 日(日) 15:00~16:30 (14:30 開場)
- 場所 : 名古屋学院大学名古屋キャンパスたいほう恵館 1F メアリーホール
〒456-0062 愛知県名古屋市熱田区大宝二丁目 4 番 45 号
- 定員 : 先着 200 名 (入場無料・事前申込不要)
- 主催 : 名古屋学院大学宗教と民族の対立・交流の現代歴史学的研究会
- お問い合わせ: 名古屋学院大学 国際文化学部 宮坂研究室 kmiyasak@ngu.ac.jp